



皆さまには、おそろいで穏やかな正月を迎えられたことと、お慶びを申し上げます。

早いもので、合併して四回目の新年を迎えました。黒潮町も一区切りをつけ、新年度から、次のステップを歩んでいくこととなります。

これまでに、旧両町の各種取り組みや、制度、料金体系などいろいろな調整を経て、基盤づくりは整ったと思っています。

この間にも、佐賀地域の「まちづくり交付金事業」や、「統合保育園の建設」、大方地域では、こう着状態にあった「国道56号大方改良」の再開、「中央保育園の建設」、「町道馬荷線の改良」など、また全体では、「情報基盤整備事業」着手や「学校耐震化事業」などに、力強く取り組んでいきます。

そして、なによりも求められる、産業の振興を図る特別の部署「産業推進室」を設置するなど、メリハリのある内

容の機構組織の改革も大きく前進させ、効率的かつ機動的な組織で行政を進めてまいります。

こうして、合併の効果も段々に発現できるものと思っています。

しかしながら、一方で、こうしたことによって、住民サービスの下下にならないよう、役職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

さて、おととしの秋に起きた経済危機は、その後ますます深刻なものとなり、それまでも低迷していた、私たちの地域の経済は、過疎高齢化の急速な進展のなかで、たいへん厳しいものとなっております。今や、「雇用対策」が、喫緊の最重要課題となっております。

そんな中で、去年の夏には衆議院総選挙において、歴史的な政権交代が行われました。

新政権には、地域経済を踏まえた、的確な経済対策を期待するところですが、財源不足のため「行政刷新会議」で

行われた「事業仕分け」により、私たちの取り組みにも、大きな影響が考えられるため、たいへん心配をしているところ。

このように、社会の先行きが不透明な状況ではあります。が、持続可能な地域社会の構築をめざして、町民の皆さまと力を合わせて、ひとつひとつの課題を克服し、未来への展望を開いていかなければなりません。

町民の皆さまには、なお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまにとりまして、今年がよい年でありますよう、ご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。



平成22年1月吉日

黒潮町長 下村 正直

「黒潮町橋梁長寿命化修繕計画」の策定について

黒潮町では、町道に架かる橋梁について、それぞれの旧町管理数を合計し、平成21年4月現在で254橋を維持管理しています。今後の見通しについて、20年後には、管理橋梁の約75%以上が架設後50年以上の高齢化を迎えます。一般的に、橋梁耐用年数は架設後50年～60年と言われており、近年の交通量の増加や通行車両の大型化により、その耐用環境についても厳しいものとなっております。本計画は、従来からの『悪くなってから補修する管理』から、今後は『損傷が小さなうちに計画的に補修を行い、橋の長寿命化を図る管理』へ移行し、町民の皆さんが生活するうえで、大切な道路の安全を守っていくことを目的として策定します。平成21年度は、次のような条件下にある概ね46橋を中心に『橋梁点検実施リスト』に基づいた委託点検を計画しました。

①橋梁延長15.0メートル以上の高齢化橋梁

②災害時に優先して確保の必要がある道路に架かる橋梁およびその道路をまたいでいる橋梁など

平成22年度以降も引き続き、残りの橋梁について点検・計画を立て、町民の皆さんの安全を確保するとともに、必要となる修繕・整備関連費用も節約するよう努めていきますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

【お問い合わせ】 佐賀総合支所まちづくり課土木係 ☎55-3700(直通)
大方総合支所まちづくり課土木係 ☎43-2115(直通)